

【随 筆】

タンチョウのカウント調査

住 吉 尚

(釧路支部)

年が明けて最初の氷上釣りに出かけたのですが、何ひとつ釣れません。帰りに別の釣り人に「どうでしたか!」と聞いてみましたが、やはりワカサギの顔を拝めなかったとか。ここには未だワカサギが遡上していないらしい。これではしばらく釣りは諦めるしかない。と言うことがあって、今度はタンチョウのカウント調査の下調べに出かけました。まずはチャンベツから。最初に行った農家には412番の足輪が付いた幼鳥と2羽の成鳥が見えました。この家族に足輪を付けた時にはヒナが2羽いました。でも1羽はその後交通事故で死んだと聞いていましたから、現在3羽ならOKです。引き返して南に走り次の農家へ。すると堆肥舎の陰に1羽だけしょんぼり立っているタンチョウが見えました。オヤ?ここには幼鳥を含めて3羽のタンチョウがいるはずなのですが。何かあったのでしょうか?いやな感じを抱いたまま次へと走ります。今度は大きく移動してして上春別の北側辺りを走ってみました。それは12月の初旬にたくさんのタンチョウがデントコーンの刈り跡にいるのが見えていたからです。未だタンチョウはいるのか?でもさっぱり見えません。やっと農家のバンカーサイロの縁に2羽のタンチョウを見つけました。2羽ともに成鳥です。前に行く少し大きいのが雄でしょう。後ろから付いて行くのが雌でしょうか。その雌の足に足輪が見えました。写真を撮ります。双眼鏡でも読めそうな距離ですが、私には動いているものを読むのが難しいと言う欠点があります。これは老化の一種でしょう。足輪番号は178番と読めました。調査員がめったに行かないこんな所で見える足輪は、「見た」と言う記録があまりないので、オー!と言うこともあるのです。でも私にはこのタンチョウが私の前にいつどこで見られたかが判りません。そこでタンチョウ保護研究グループの事務局に電話をします。「178番を見たんだけど最近どこで見られていますか?」「5年前から見られていませんよー!」とのこと。あまりに長く見られていなかったのも、死亡したものとして昨年暮れに足輪名簿から落としてしまったとか。折り返し電話が鳴ります。これは2012年に標茶町内で足輪を付けたもので足指に異



2012年7月のヒナ捕獲時の指

常有、爪が横を向いているので地面を蹴ることができない状態だったと。思い出しました。その時見た足の爪は小さくクルリと曲がっていて、先が地面に触れないので鋭く尖っていました。こんな足なら爪が伸びてそのうち困ることになりそうだと思っていました。この写真は2012年7月に足輪を付けるため捕獲したときのタンチョウの状態です。左右両足とも中趾と内趾に異常があり先端が90度内側に曲がっています。

一方、こちらは2022年1月に写したものです。足輪と共にその足先が写っています。この写真でも爪が地面と平行に横を向いているのが判ると思います。ほぼ10年ぶりに見たその爪は以前に見た時と同じでした。足に異常があり、何となく弱そうな感じを受けたので、この鳥は上手く育つだろうか?と思っていましたが、10年間上手く生きてきていたのですね。放鳥後4年間は標茶町内で越冬していたので毎年確認の報告がありました。その後ペアの相手が見つかり新しい繁殖縄張りを持ったのでしょう。そして我々の前から姿を消して5年間見つけれ



約10年後の指

れませんでした。ただ5年間も見られなかったとは言え、人慣れしているように見えましたから、人の近くで生活しているタンチョウでしょう。単に我々が見つけられなかっただけのことのようです。

さてさて、そうこうしている内にタンチョウ保護研究グループが行う、タンチョウのカウント調査が1月21日から2週間の予定で始まりました。初日は音別周辺です。私の受け持ちは尺別から直別までです。音別駅9時集合で調査が始まりました。この日は晴天でしたが風が強く寒い日でした。午前中は、あちこち探してやっと2羽見つけただけでした。さて午後になりました。午前中に見た場所と同じ場所です。今度は次々とタンチョウが見えます。20羽近く見たでしょうか、そしてこのうちの何羽かは音別の給餌場で給餌が始まるのに合わせて、音別まで飛んで行くように見えました。これは新しい発見です。でも全体には少し数が少ないかな？という感じを持ちました。翌日は阿寒のタンチョウ観察センターに7時半集合です。この時期に朝7時前に家を出るのは大変きついですよね。そして私は観察センターから上流の阿寒川周辺です。まずは国道側です。タンチョウは全く見えません。吹き溜まりがあって悪戦苦闘し、やっとひと回りしましたが3羽を見ただけでした。それでひと休みしてから早めに昼食を食べ、午後の巡回に出ました。ここでやっとヒナ2羽連れとヒナ1羽連れの家族を見つけて1日目の調査が終わりました。次の日は日曜日です。今度は阿寒川の右岸側だけで良いと言われ右岸側の調査です。ところで川の右岸と左岸ですが、川は山から海の方を向いて流れているので海に向かって右と左なのだそうです。こうして阿寒2日目、午前と午後の2回で終わらせました。朝はまだねぐらから出ていないタンチョウを。そして午後は農家周りにやってくるタンチョウを、と効率よく見ることに。こうしてねぐらで10羽、農家周りで8羽を見つけました。この中で同じ農家に最初は1羽だけのタンチョウ、その後にヒナ2羽連れのタンチョウの家族が、そして最後はヒナ1羽を連れた家族が来るのが確認できましたが、どうやら力の弱い鳥から順番に来たようで、最後に来たヒナ1羽連れの家族が来るとヒナ2羽連れの家族が近くの別の場所に移動して、ヒナ1羽連れがその後はこの場所を占有しているようでした。こうして阿寒の調査が終わりました。タンチョウばかり見て、面白くないだろうとお思いでしょうが、突然目の前をヤマセミが横切ったり、ちょいと変わったカラスだと思ったらミヤマガラスだったり、道路脇の古木に眠そうなエゾフクロウを見たりしながらの調査ですから、それなりの



ミヤマガラス



眠そうなエゾフクロウ

面白さもあるのです。

次の日、月曜日は池田駅9時半集合です。今年はいつもの利別川沿いではなく、十勝川の十勝川温泉から上流部の調査でした。ここは初めてということもあり、どうも要領を得ない調査となりました。全体で10羽ほどしか見れず、しかもこの中で昨年生まれのヒナは1羽しかいませんでした。初日の尺別の調査でも今年はヒナ連れが少ないようだと思っていました。これが十勝2日目の忠類、大樹方面ではもっと顕著で、ここでは20羽ほどのタンチョウを見たのですが、昨年生まれは1羽もいませんでした。ここまでの調査の印象は数えられたタンチョウの数が少ないような気がしています。おまけに十勝では昨年生まれのヒナが極端に少ないようです。26日は調査はお休み。これは私が調査に出られない日だからです。毎週水曜日、私は獣医師会に出ることになっていますから。翌日の27日からは後半戦です。鶴居から東側のタンチョウの調査となります。ここでどんな結果が待っているのか？気になりますね！

タンチョウのカウント調査は最初の1週間で阿寒から

西側を調査しましたから、次の1週間は鶴居から東側の調査です。木曜日には中茶安別周辺の調査でしたが、パラパラ雪が降って遠くが見えないので苦勞する1日でした。この周辺では夏に4羽のタンチョウのヒナに足輪を付けたのですが、この日に見つけられたのはたったの1羽だけでした。1羽は交通事故で死んだとのことですが、残りの2羽はどこに行ったのやら。調査前に1羽だけでしょんぼりしていたあのタンチョウは、あの1羽も含めて1羽のタンチョウも見つけられませんでした。翌日金曜日は標茶町周辺が調査地で、私の担当は標茶市街地から南で達古武まででした。ここでも夏に2羽のヒナに足輪を付けましたが、やはりここでも1羽しか確認できませんでした。十勝での調査でも感じていたのですが、ここ標茶町では白い鳥が飛んでいるとタンチョウかハクチョウだと思っていたら、最近ではダイサギが多くなりふわふわと飛ぶ姿は遠目にはタンチョウによく似ていて何度も間違いそうになりました。

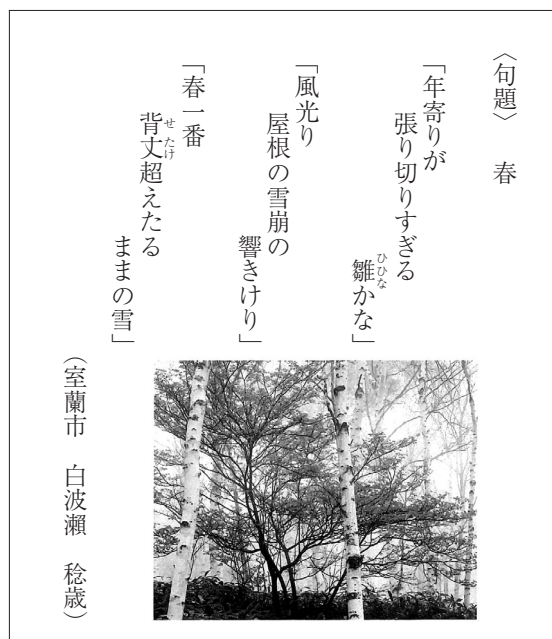
土曜日と日曜日は鶴居周辺での調査です。私は鶴見台給餌場に雪裡川から出て飛んでくるタンチョウを、給餌場でカウントしている調査員に事前にお知らせをする仕事です。タンチョウは鳥としては案外朝寝坊で、9時に給餌場でトウキビを撒くのに合わせて飛んでくるのですが、寒い日ほどタンチョウの出動は遅くなるのが特徴です。8時前に調査ができる体制を整えましたが、タンチョウが飛来し始めたのは8時半を回ってからでした。そして早朝に飛んでくるタンチョウは皆足を畳んで腹の下に抱くような格好で飛んできます。この格好は私が釧路に來た昭和50年代にはあまり見られず、気温が-25℃を下回ったとても寒い日だけ一部のタンチョウに見られたのですが、最近では早朝には皆このような姿で飛んできます。とは言え、やはり姿勢の制御に無理があるのでしょうか9時を過ぎ暖かくなるとこんな格好をして飛ぶタンチョウは見られなくなります。タンチョウは水の中に立って寝ています。冷水で冷え切った足を朝の冷たい空気にさらして飛ぶのは大変なのでしょうね。それで足を引っ込めて飛ぶのでしょうか。この格好をどうやって覚えていったのでしょうか。普通は子が親を見て覚えるものですよ。タンチョウも一部の親鳥が始めたことを皆が見て覚えたのでしょうか？どんな風に学習し伝搬していくのかには興味がありますね。サルが砂浜に投げられたイモを食べるとき、砂を払って食べるのですが、一部の子ザルが海で洗って食べると砂が落ちて塩味も付くと言うことを覚えたのですが、これを見ていた母ザルが真似をし、群れにこの文化が広がったと言います。最後までな



足を畳んで飛ぶタンチョウ

かなかやらなかったのは雄の成獣だったとか。世の男どもは人間も然りで頑固なんでしょうね。

さて2日間の鶴居周辺の調査を終え、残るのは浜中から根室までです。月曜日は上春別から西別川と春別川にはさまれた細長い調査地で海までですから、広くて大変でした。午前中は1羽も見あたりません。4時半には釧路市内まで帰って来い、というお達しですから3時には調査を終わらせねばなりません。こうして2時50分になり本日はゼロと言う報告を覚悟していました。でもやっと2羽見えたのです。そしてここから3時半までに20羽ほどのタンチョウを見て帰って来ましたが、当然ですが4時半までには帰り着きませんでした。



〈句題〉 春

「年寄りが
張り切りすぎる
雛かな」

「風光り
屋根の雪崩の
響きけり」

「春一番
背丈超えたる
まの雪」

（室蘭市 白波瀬 稔歳）